

原発事故からの復興における 富岡町民の生活と将来に関する意識調査

調査の概要とその意義

高木竜輔（尚絅学院大学）・佐藤彰彦（高崎経済大学）・
山本薫子（東京都立大学）・沼尾波子（東洋大学）・
金井利之（東京大学）・横山智樹（日本学術振興会）・
市村高志（法政大学）

連絡先：高木竜輔（r_takaki@shokei.ac.jp）

報告資料について

- 今回の報告資料は、以下の箇所からもダウンロード可能です。

Researchmap > 高木竜輔 > 学会報告

本報告の目的

- 本報告では、2023年1月に富岡町民を対象とした質問紙調査のデータについて、主要な調査結果を紹介する。
- その上で、この調査の意義と、原発事故被災者・被災地に関する今後の調査研究において求められる点を述べる。

報告内容

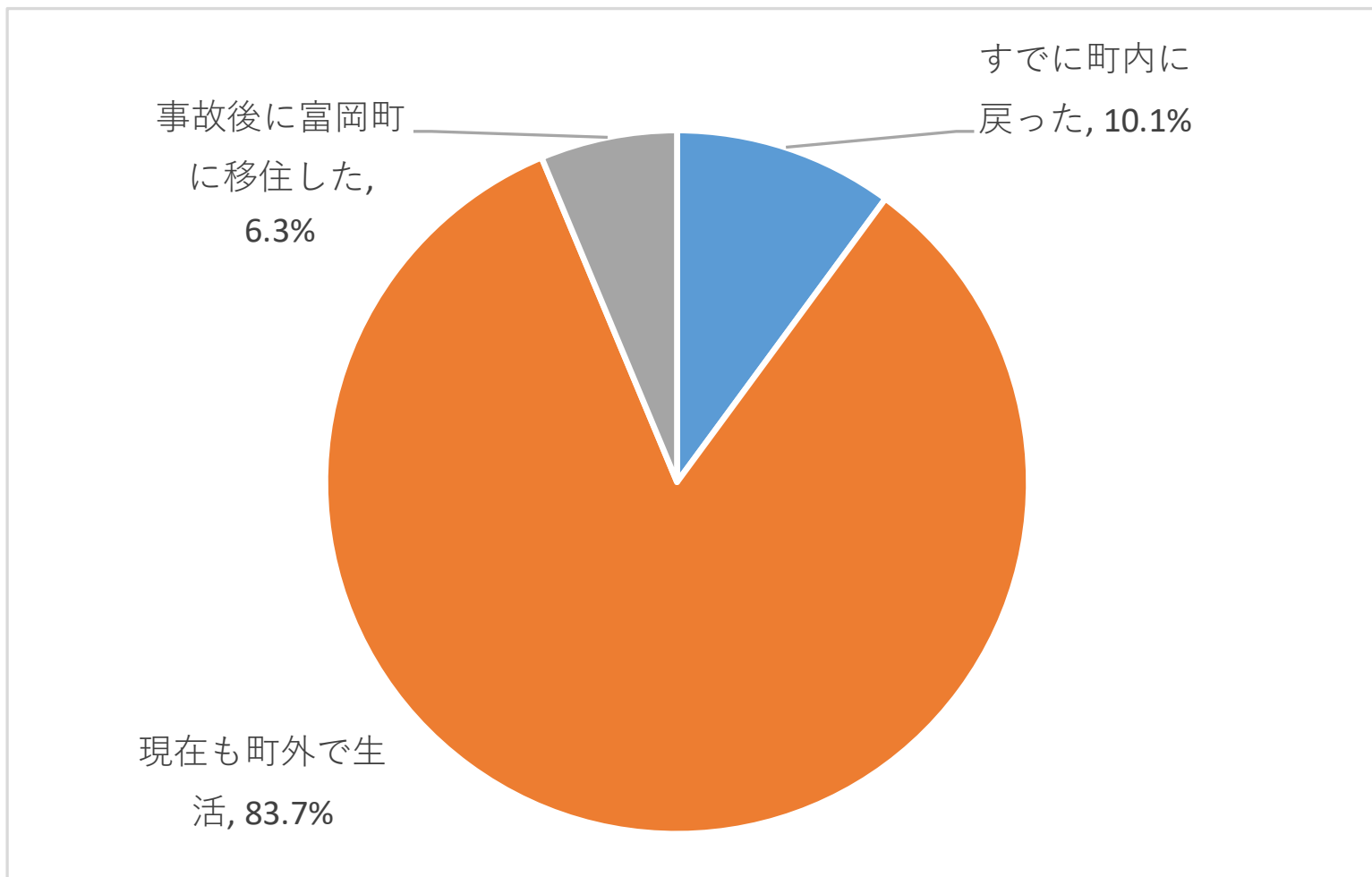
1. 問題関心と報告目的
2. 調査概要
3. 分析結果
4. まとめ

2. 調查概要

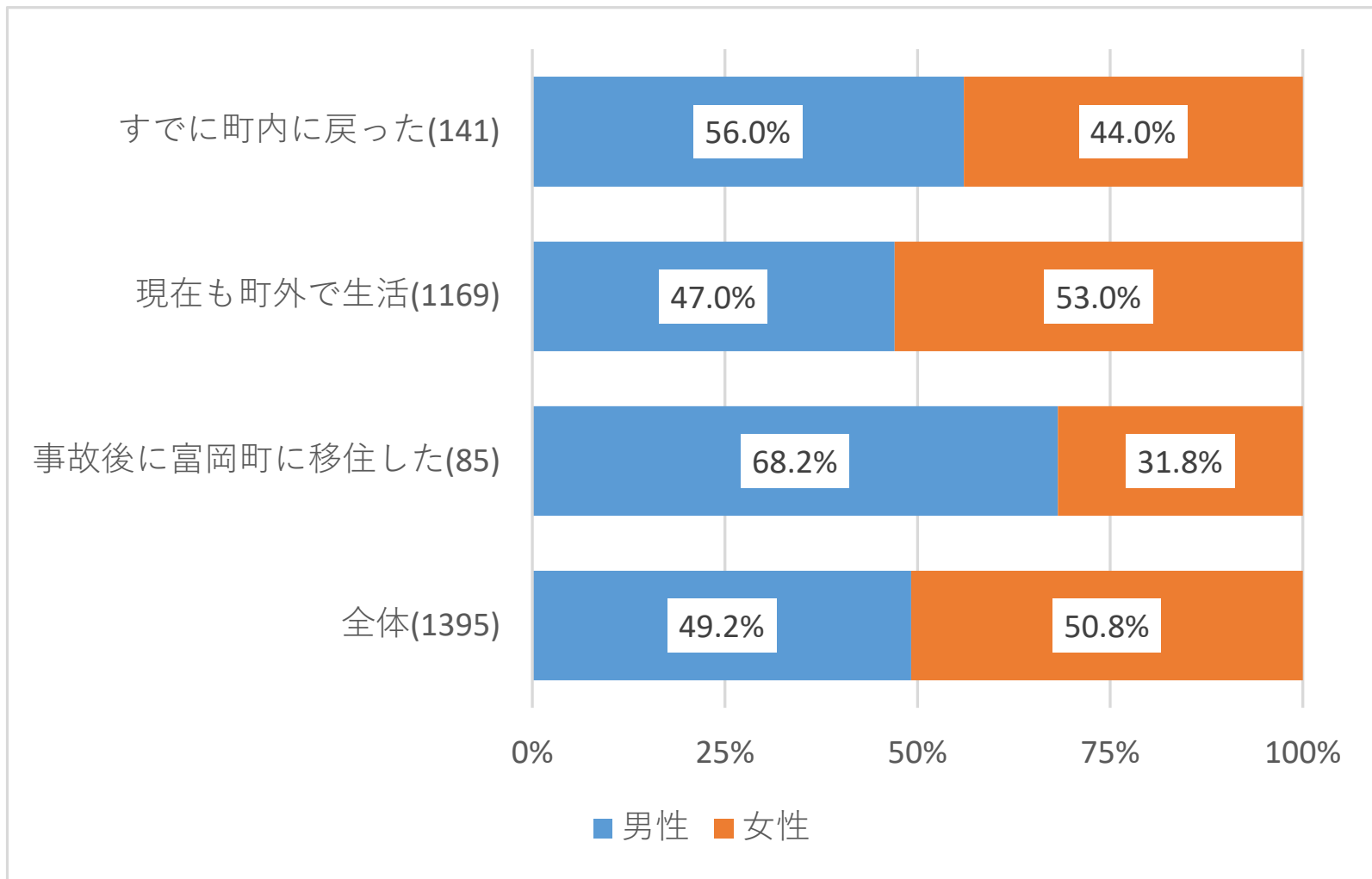
調査の概要

- 2022年11月1日時点で富岡町の住民票を持つ18歳以上の方から、約半数を無作為抽出。10,460人の約半数、5,229人が対象。
- 調査期間は2023年1月1日～1月31日まで。1,401票が有効回収票。回収率は26.8%。未達が21票、無効票が3票。
- 本報告では、帰還者と避難者に対象者を絞り、分析を進めていくことにする。

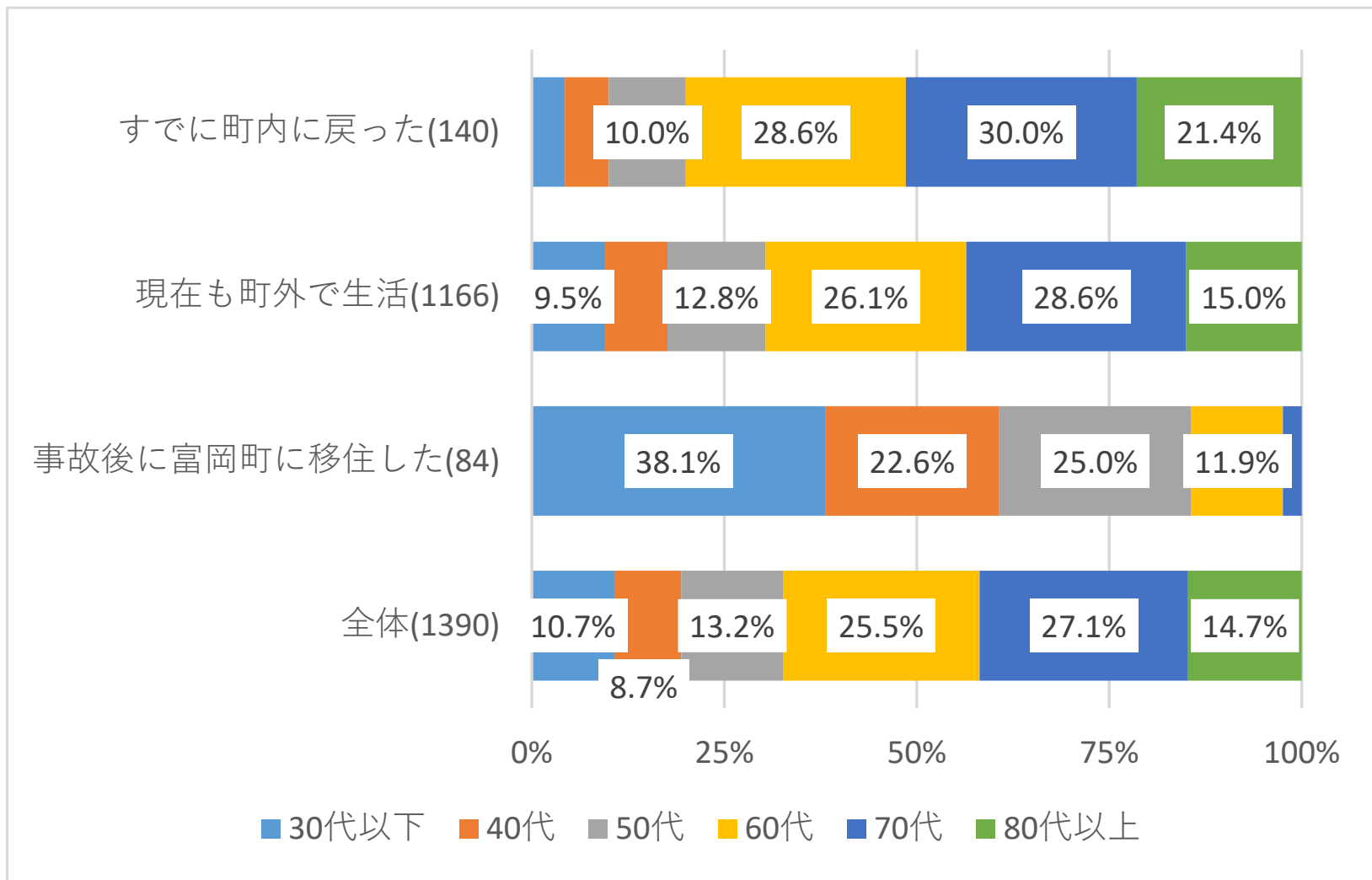
対象者の状況(1,401)



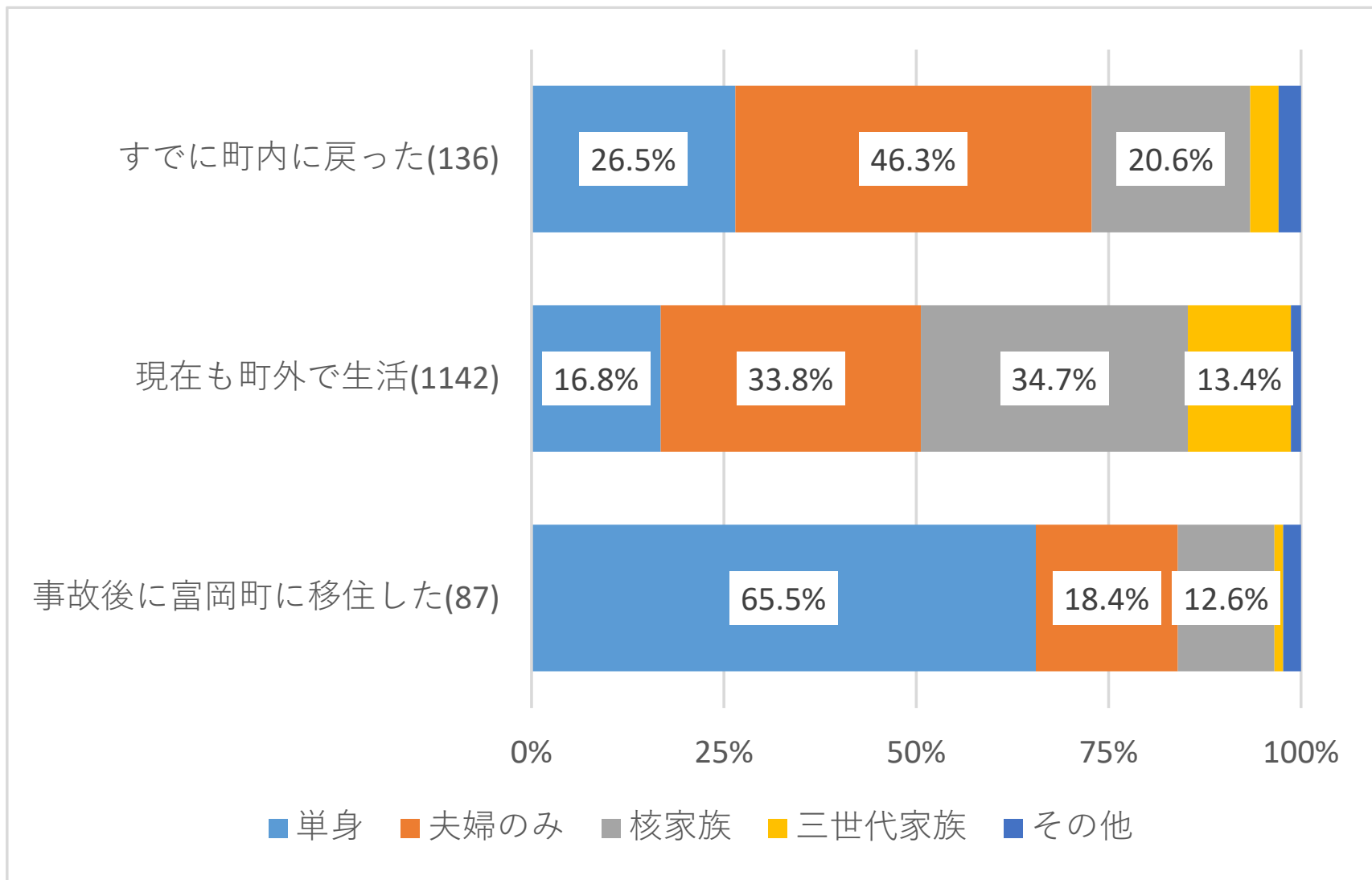
対象者の状況 × 性別



対象者の状況 × 年齢



対象者の状況 × 世帯構成



調査結果の報告

- この調査データに基づく報告は、すでに第96回日本社会学会大会で報告している。

佐藤彰彦, 2023, 「原発事故からの復興における富岡町民の生活と将来に関する意識調査(1)——研究・調査の概要」

高木竜輔, 2023, 「原発事故からの復興における富岡町民の生活と将来に関する意識調査(2)——主観的幸福感の規定要因に関する分析」

横山智樹, 2023, 「原発事故からの復興における富岡町民の生活と将来に関する意識調査(3)——町に通う人の傾向と意識」

市村高志, 2023, 「原発事故からの復興における富岡町民の生活と将来に関する意識調査(4)——避難者が住民票を異動しない要因」

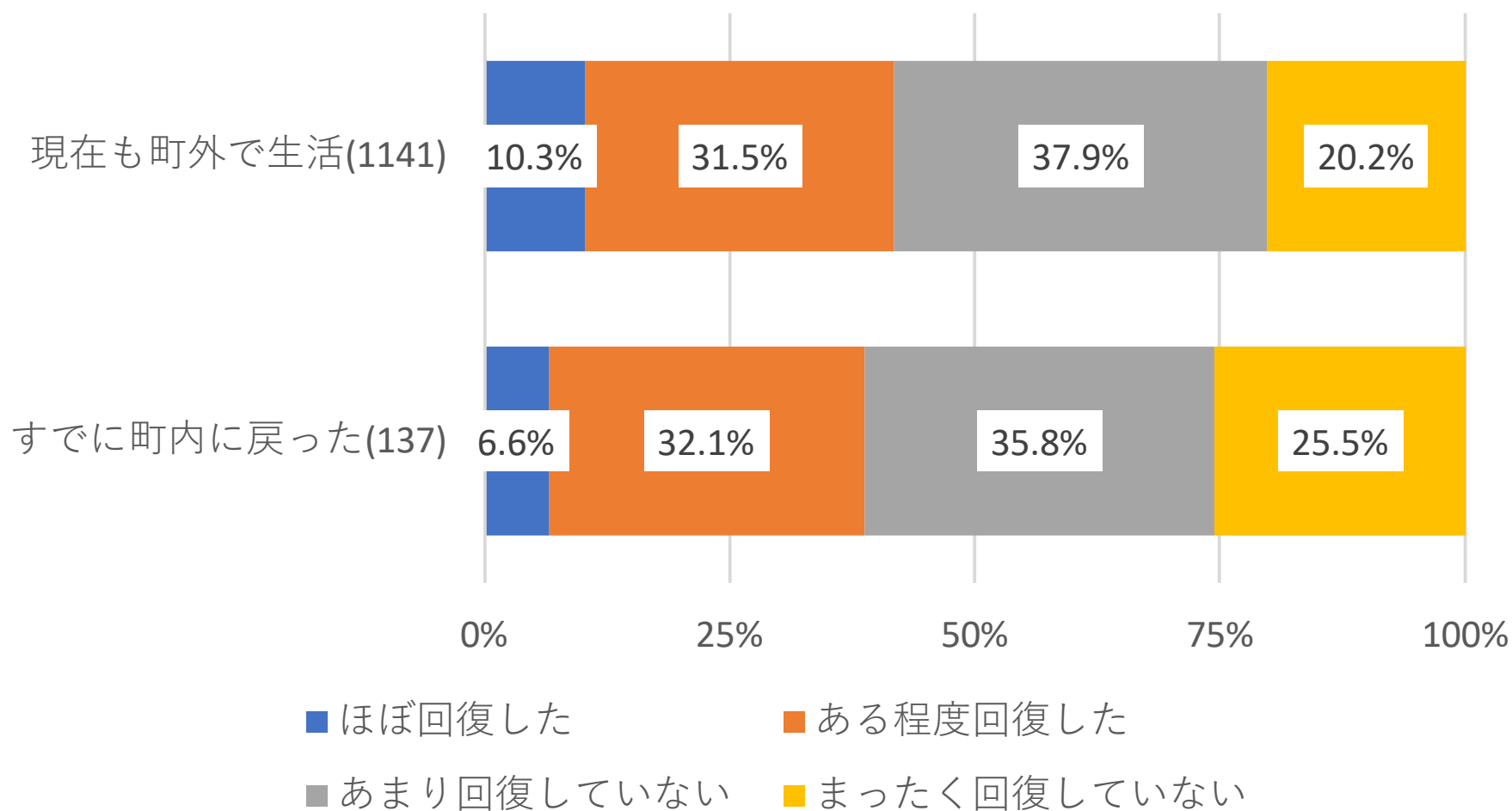
山本薫子, 2023, 「原発事故からの復興における富岡町民の生活と将来に関する意識調査(5)——移住者の動向と意識」

- また、この調査データに基づく分析は以下の論文で公表している。

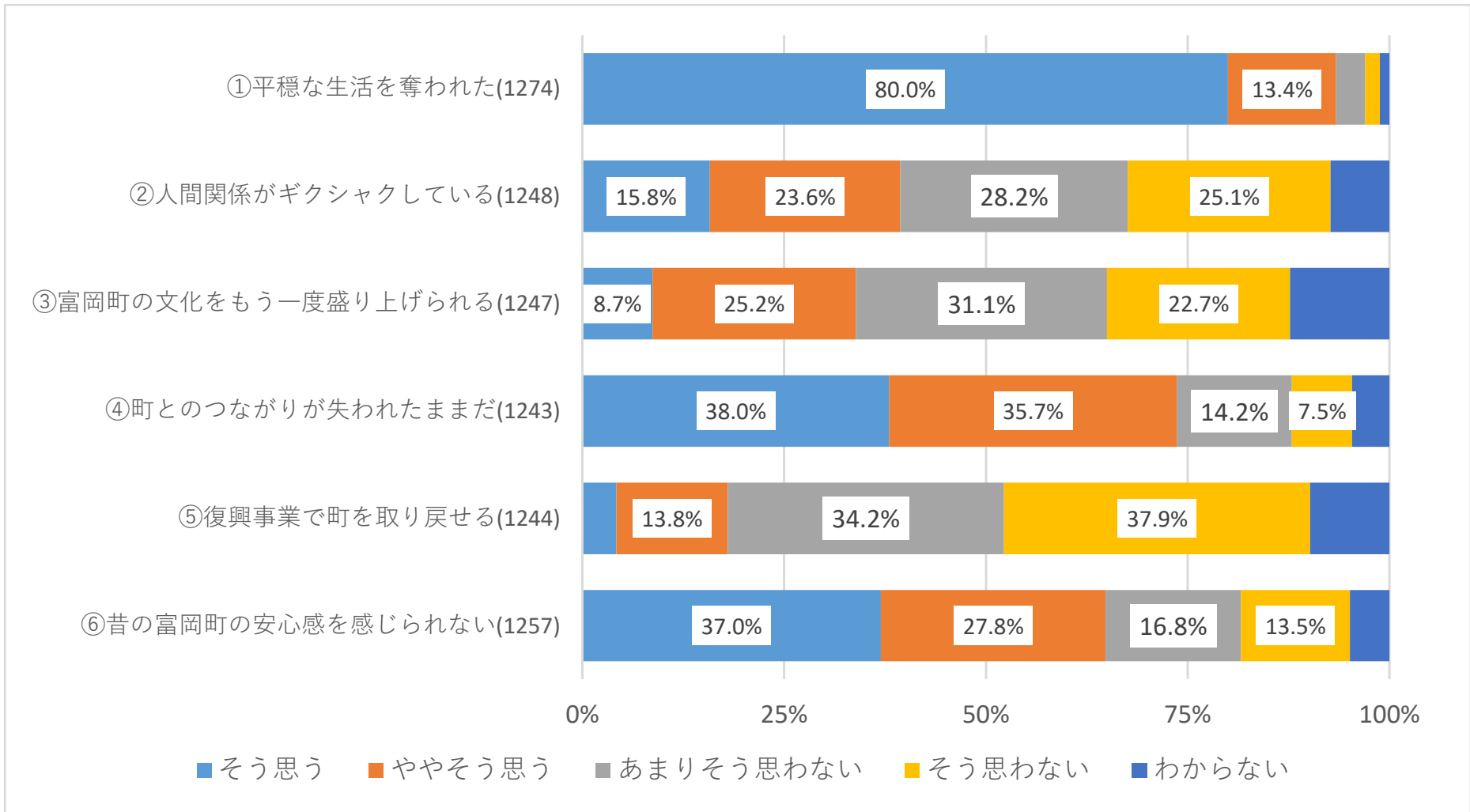
高木竜輔, 2024, 「福島第一原発事故からの復興をめぐる富岡町民の意識と分断 —— 「帰町者」「避難者」「転入者」の違いに注目して」『自治総研』(545): 1-22.

3. 分析結果

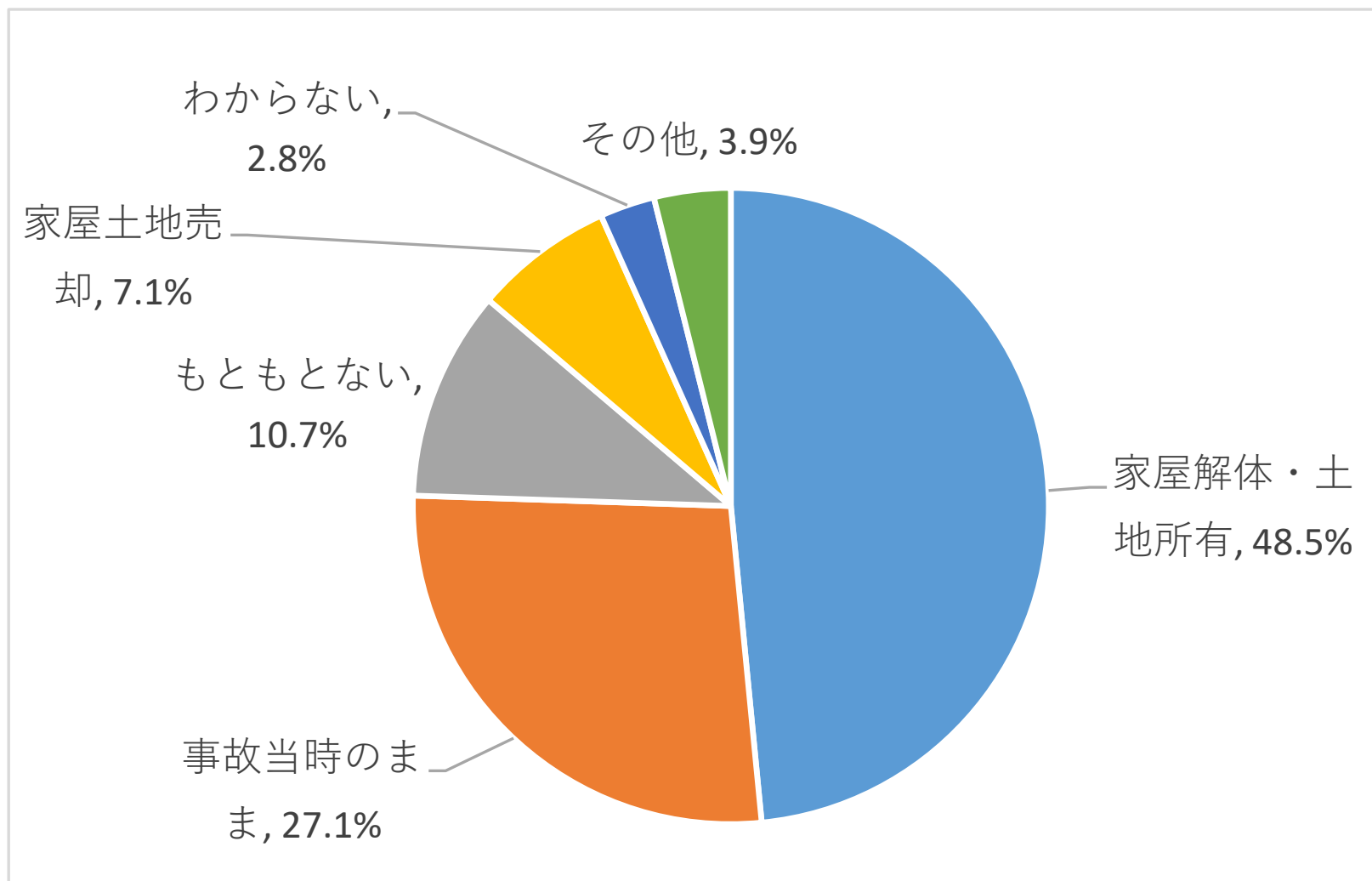
避難状況 × 生活復興感



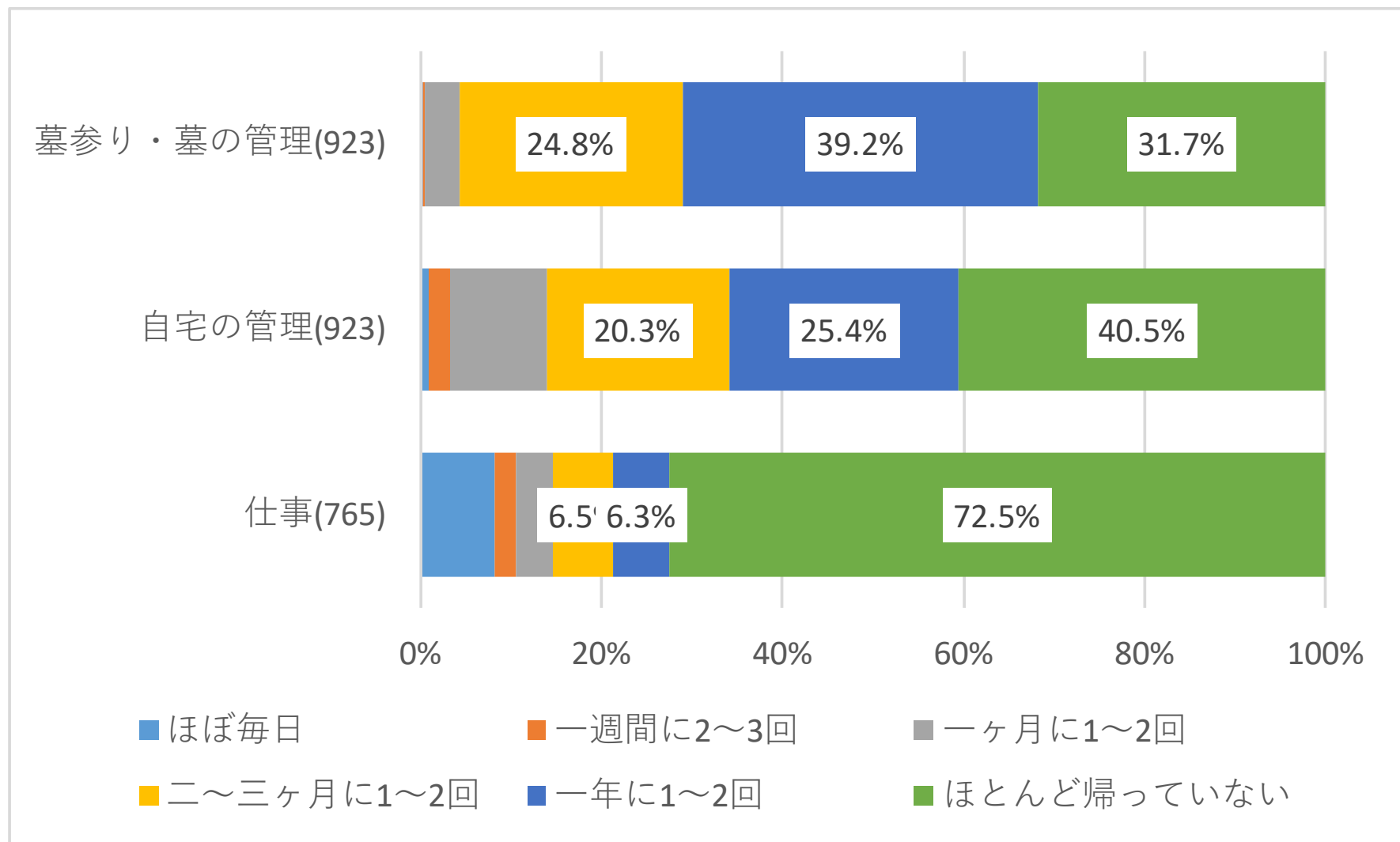
「ふるさととの喪失」に対する意識



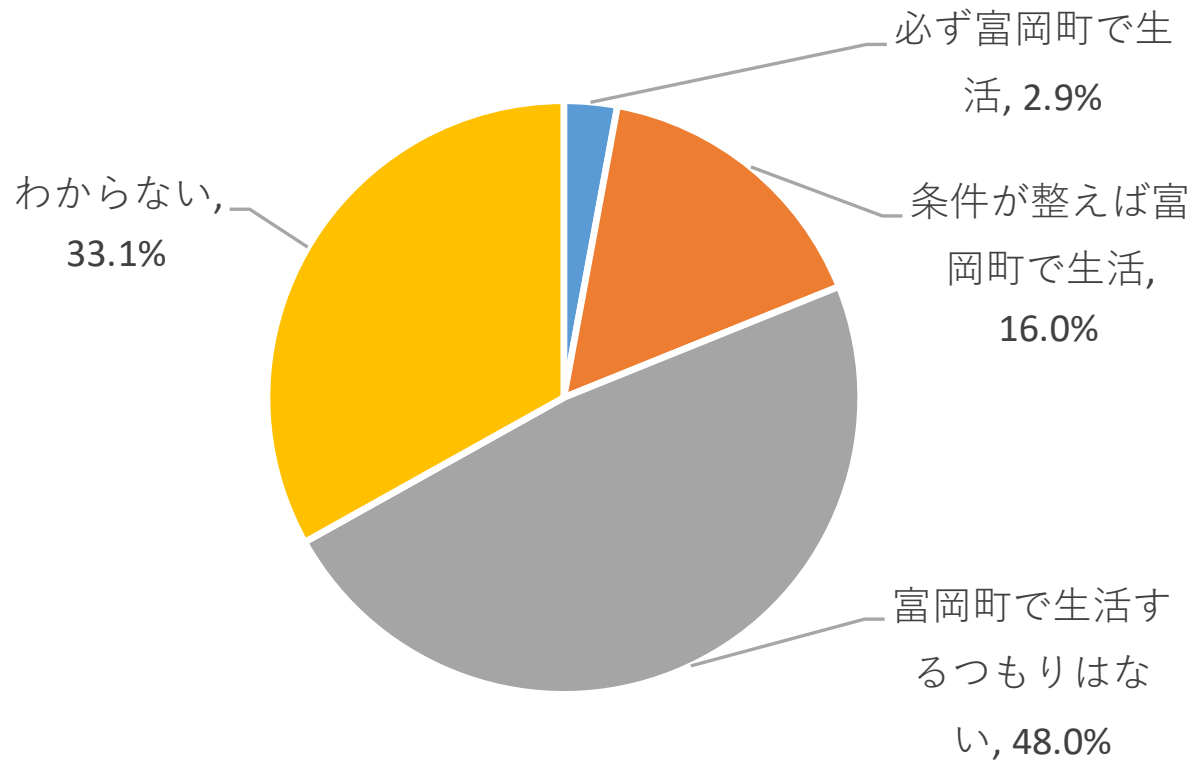
住宅・土地の所有状況(1,266)



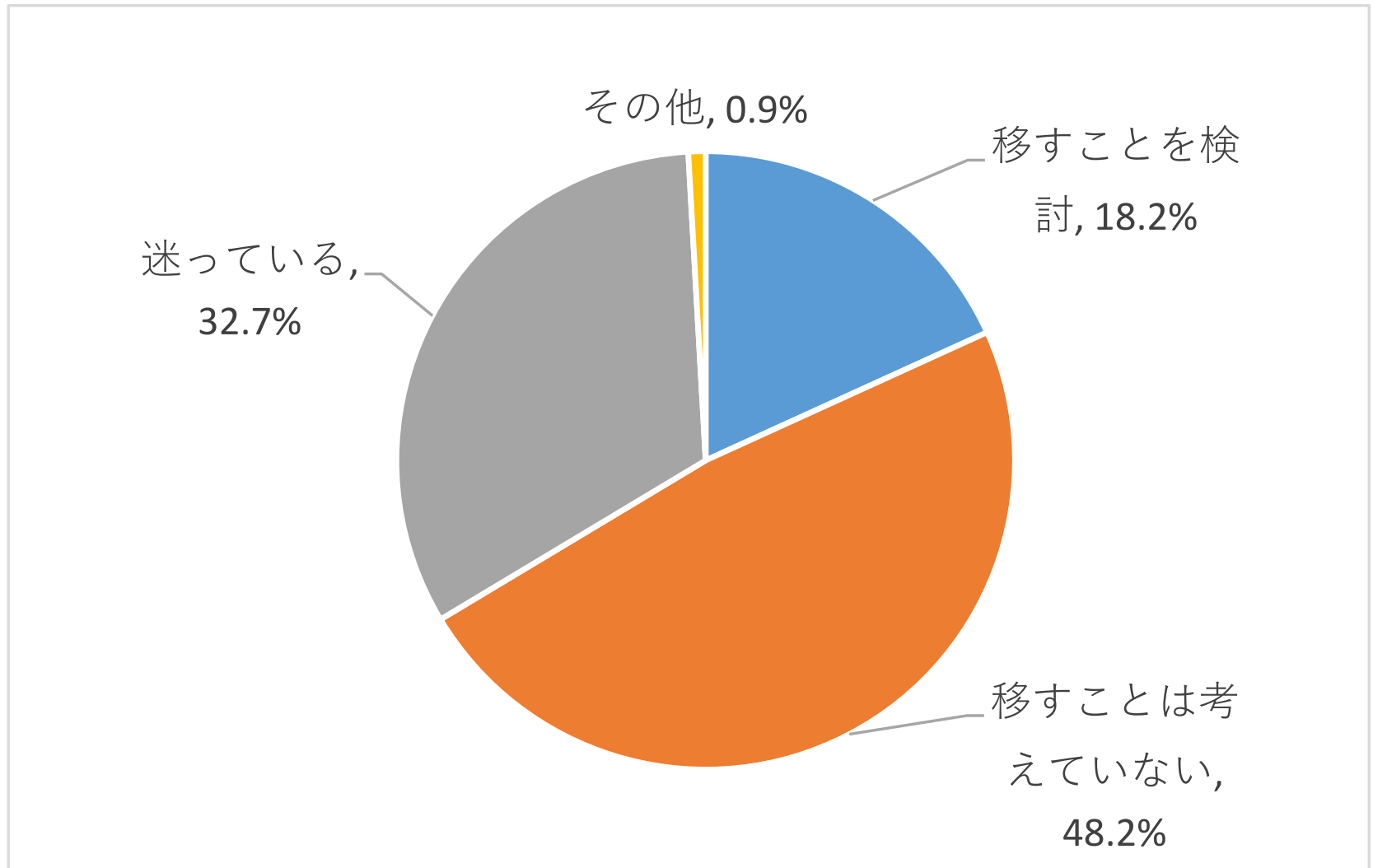
帰町頻度



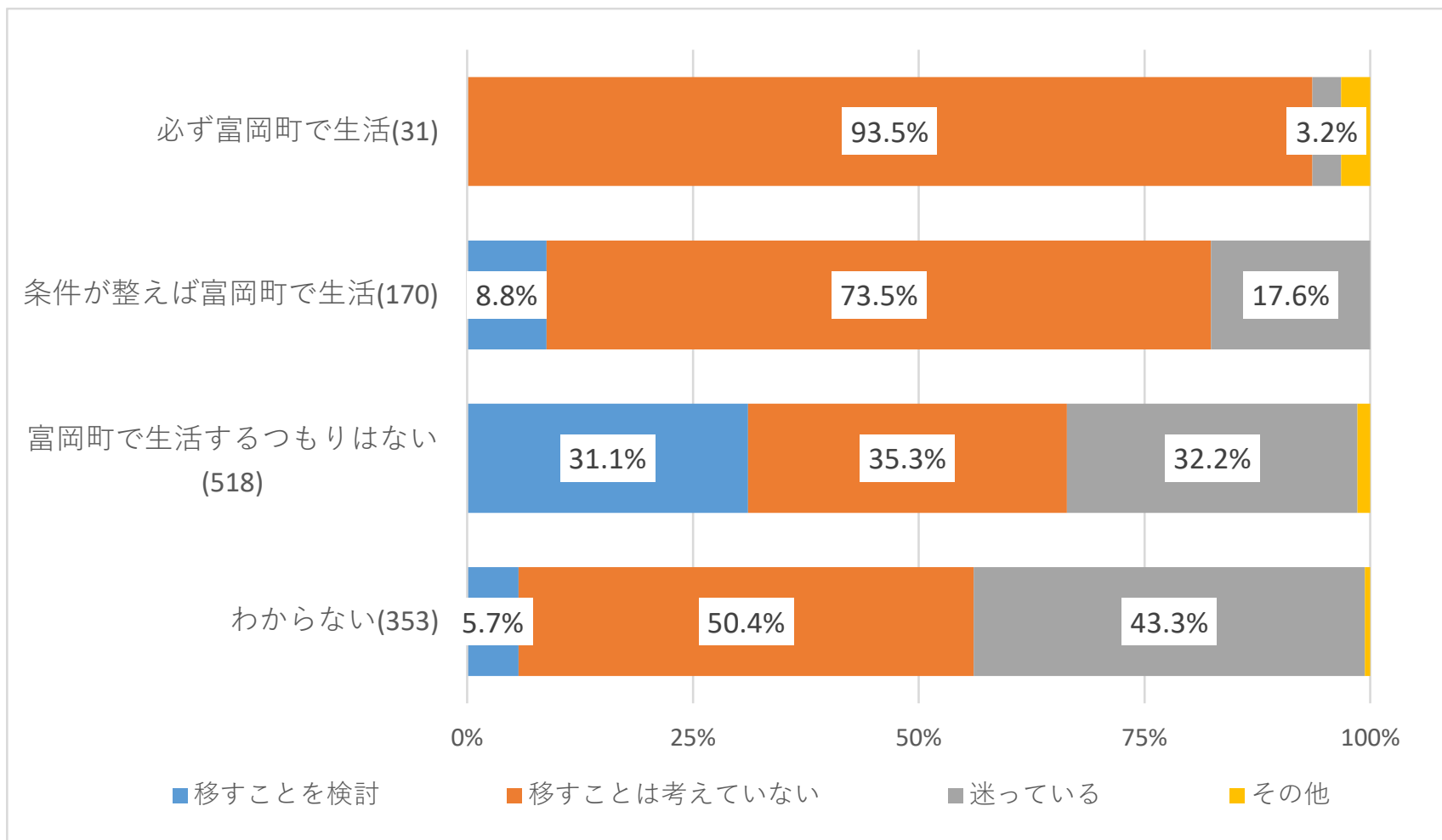
帰町意識(1,089)



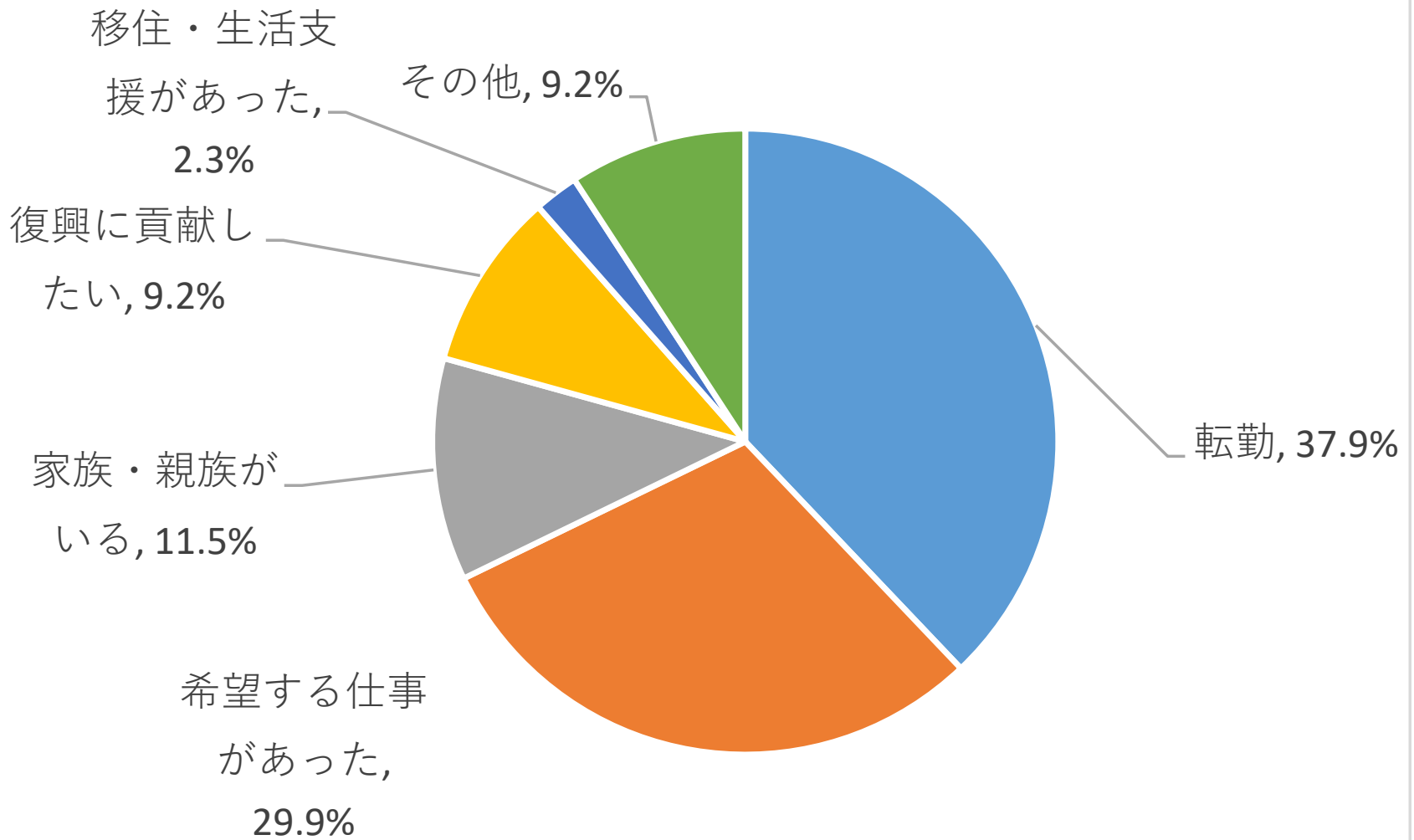
住民票に対する意識(1,075)



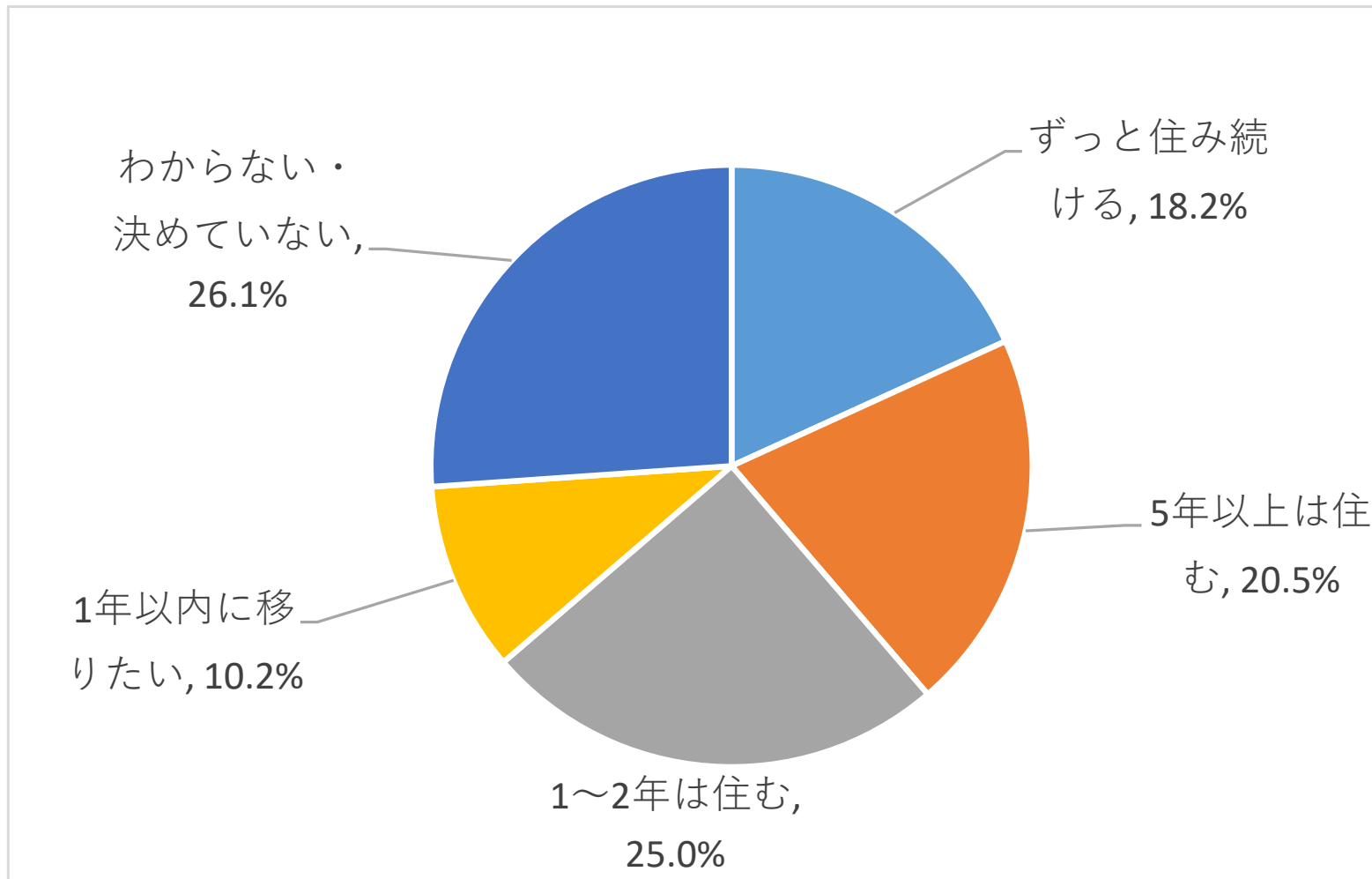
帰町意向 × 住民票に対する意識



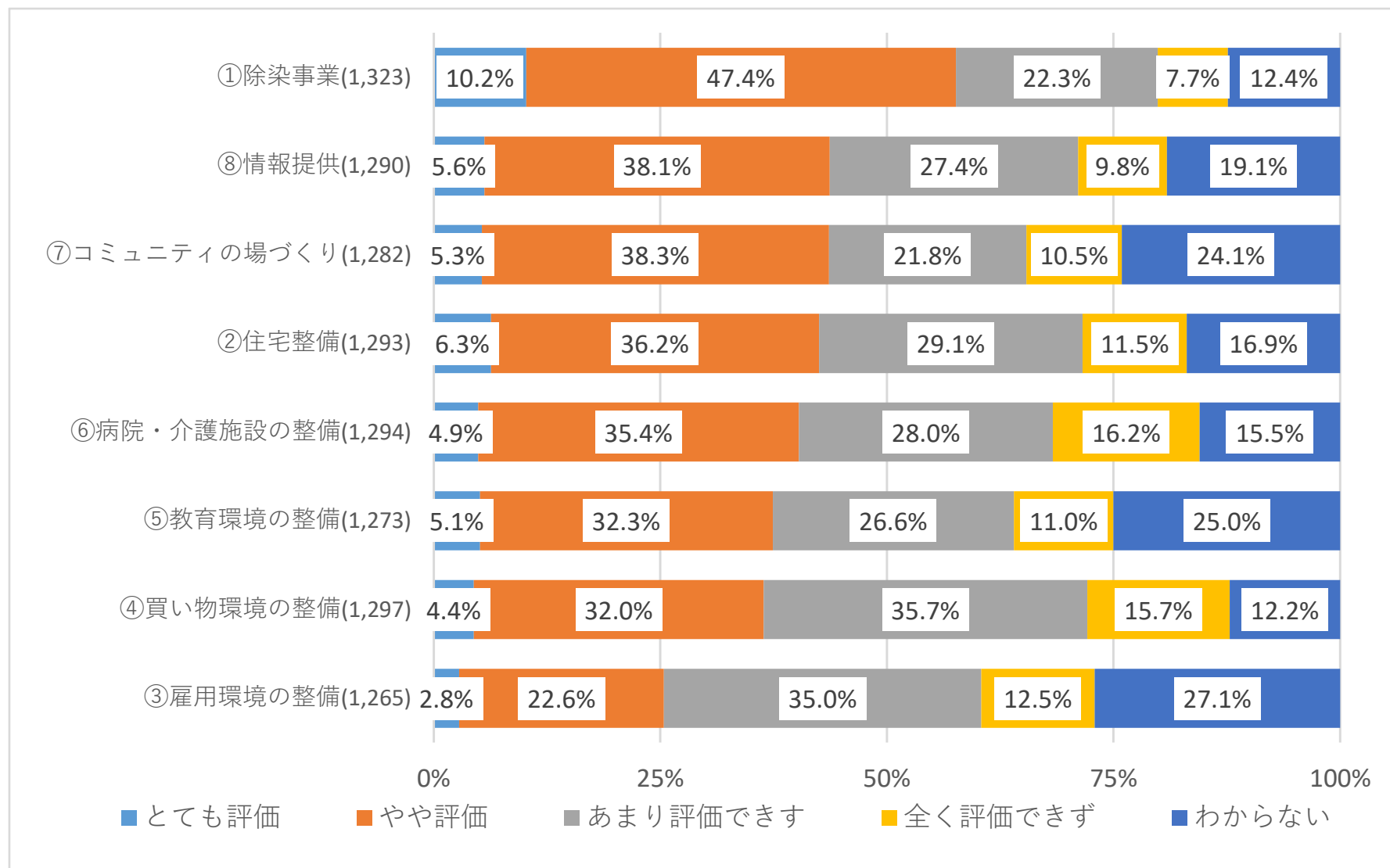
転入理由(87)



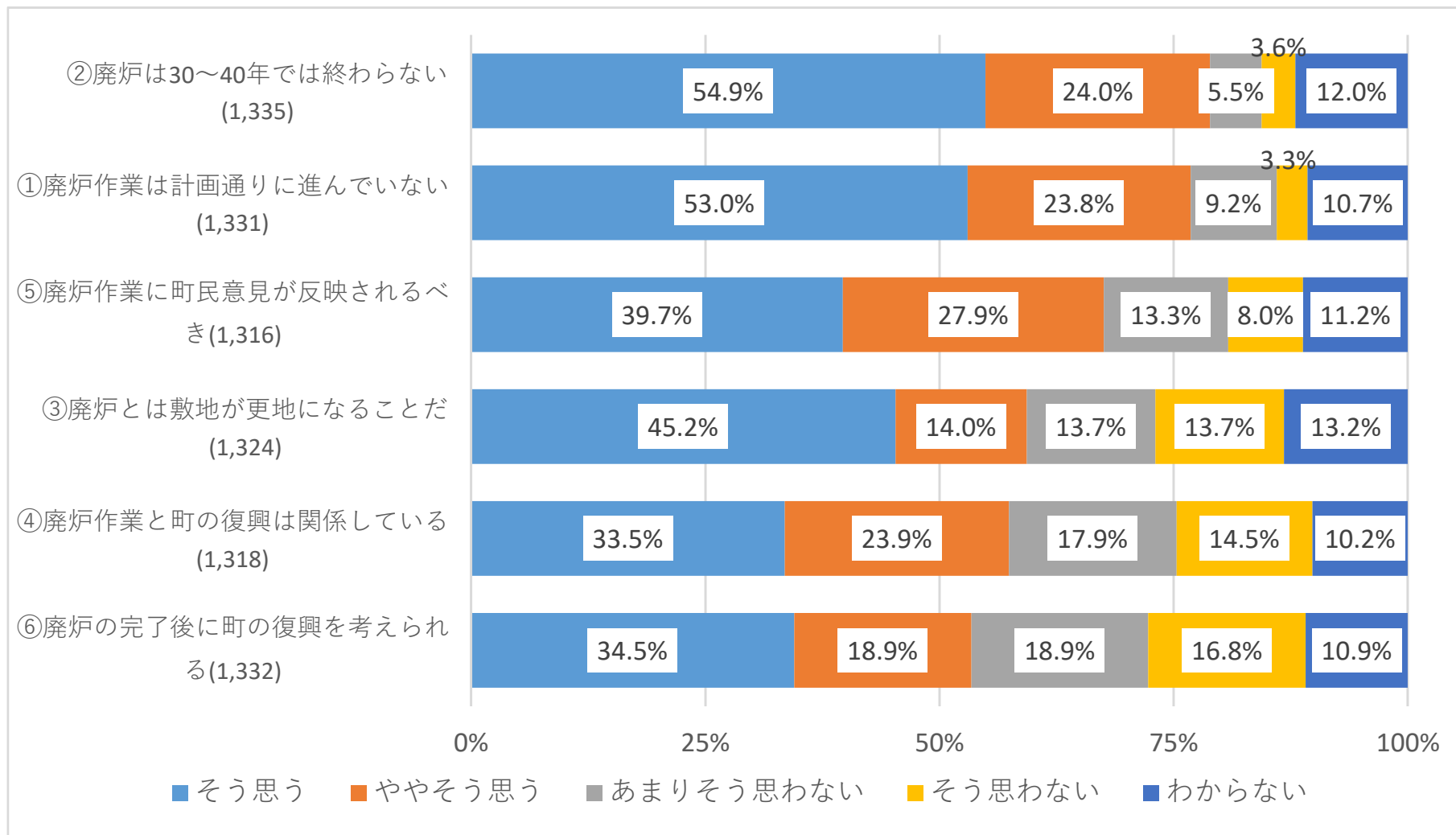
永住意思(88)



復興事業に対する評価



廃炉に対する意識



4. まとめ

本調査の意義

①事故被災地の住民に対する個人を対象とした
質問紙調査

一世帯主を単位とした復興庁の意向調査

②被災者だけでなく、転入者も含めた調査

一時間の経過とともに流動化・多様化する被災者なら
びに住民

本調査の可能性

- ①避難者の避難元（富岡町）との関わりと避難生活に対する意識
 - ― 帰町頻度、帰町意向、など

- ②被災者（帰還者、避難者）の原発事故被害に対する意識
 - ― 「ふるさととの喪失」、不動産の状況

- ③富岡町民の復興に対する意識
 - ― 復興事業への評価、廃炉に対する意識
 - ― 転入者に関する研究、被災者と転入者との意識のズレ

ご静聴
ありがとうございました。

本研究はJSPS科研費 20H01577の助成を受けたものです。